

RE START

太田哲也の10年

[連載3回]

TEXT◎中三川大地 (Daichi Nakamigawa)

PHOTO◎田中秀宣 (Hidenobu Tanaka)



# 安全への挑戦

「モータースポーツの世界のようにそこそこ清々しいかけ声が始まる。太田哲也が展開するエンジン・ホイール&セーフティ・ドライブ・イン・グレース・レッスンである。このレッスンは一部のクルママニアのための、ドラテク講座に終始しない。キーワードは、安全。クルマの能力を知り、その動きを正確に掴むことで、安全運転につなげる狙いがある。今回、太田らしいその取り組みに迫る。

太田哲也が定期的に行うエンジン・セーフティ・ドライブ・イン・グレースという活動がある。一般の参加者を募り、サーキットを舞台に運転技術を伝授する。一見したところでは他にもよくあるドラテク講座と似ているようだが、太田の動機は彼らとは少々趣が異なるようだ。

その思想を理解するには、活動名に付けられた「セーフティ」という言葉がキーワードになる。太田はあの重大事故の経験から自動車の安全というものに、常に関心を寄せていた。しかし突き詰めていくと、いかに自動車予防安全技術が進化し、また走りやすい道路になろうとも、一番大事なのはドライバーの意識であり運転技術なのだという結論にたどりつ

て、世に安全運転を払いたい」

太田哲也の安全への思い。それは自身の体験が発端だが、一般道で他者の交通事故に遭遇したときの経験も少なくない動機になったという。

「ジャーナリスト活動の一環で試乗をしていると、たくさん交通事故に遭遇する。中でも忘れられないのが、伊豆スカイラインで対向車線からはみ出してきたオートバイと、自分の前を走っていたクルマの正面衝突。空中を飛んだライダーが目前に落ちた光景が今も脳裏に焼き付いている。こういう悲劇を減らしたい。ライダーの運転もさることながら、オートバイの様子がおかしいのを察知できる観察眼がもしドライバー側に備わっていれば防げたかもしれない

いてしまった。それを踏まえて、ひとりでも多くの人間に適正な運転技術を習得してもらいたいと始めたのがこうした活動なのである。

「俺の考え方として、皆、運転が上手くなれば交通事故はなくなると思っている。自動車という危険で責任の重い道具を操ることは、教習所だけでは伝えきれないんだよね。そこで得られない知識を育み経験を積んでもらいたい。かといって、楽しくなければ自然と足は遠のく。だからエンジン・ホイール、なんだ。楽しみながら安全に運転を学べる『学校』を構築したかったんだ。この活動を祖とし

い。俺はその後ろを走っていたけど、オートバイが曲がりきれない速度だつて倒した角度から解ったから速度を緩めた。それに気付かなければ、自分が運転するクルマの上にライダーが降ってきたかもしれない」

主目的をセーフティに置いたレッスンだけでなく、参加者はサーキット未経験者が多く、太田自身もそうした人々の参加を歓迎している。敷居は低くともおしなべて意識は高い。若者から家族連れ、女性までいたのが印象的だ。中には名古屋方面から自走で駆けつけた方もいた。連載第一回でご登場いただいたアナウンサーの松本秀夫さんも、前回のレッスンに参加して感銘を受けていた。既存のレッスンによくある一部のマニ



レッスン前半は実践的な走行に関する理論や安全走行を行うためのレクチャーを実施。太田哲也校長の講義に加え、今回のレッスンには講師としてジャーナリストの斎藤慎輔氏が参加し教鞭をとった。誰にでもわかりやすい噛み砕いた講義により、漠然と運転していたことが理論で裏付けられ、結果、理解を深めることに繋がったはず。



アのためだけのドラテク講座とは、明らかに一線を画している。皆、自分の愛車を持ち寄り参加する。午前中は座学で徹底的に運転技術理論を学ぶ。例えば荷重移動とそれにリンクするタイヤのグリップ力。クルマ好きなら常識だと言われそうだが、その理論から引き出される実践的な走り方の説明。ブレーキは曲げるための装置、コーナリング中にもブレーキを踏む旋回ブレーキのテクニック、クニック、などなど。改めて聞くことより深く理解できるような気がした。専門用語もあまり使われず初心者でも解りやすいのが特徴だ。今までそうした概念を持たなかった人にとつては、目から鱗が落ちる情報だろう。「速度計を見るだけでは、安全が否かの判断はできない。クルマの挙動を感じて総合的に判断できるドライバでなければ事故のリスクを回避できないと思う。また、ブレーキやタイヤは冷えていると本来の性能を發揮できないということも知っておいて欲しいことは山ほどある」



この日の袖ヶ浦フォレストレースウェイには、教習車がルノー・ジャポン提供のメガーヌRSだったこともあり、およそ50台の参加車の中には多くのルノー車の姿も。レッスン後半は講師が運転するルノー車への同乗走行と、自分のクルマを使ってのコース内自由走行。安全かつ楽しくドライブすることが大きな趣旨で、タイムアタック形式の「スパタイGP」も併催してモータースポーツの楽しさを手軽に味わえる構成になっていた。

と伝えるが、走りに関して細かい指示は一切ない。近くで走るクルマがどう動くのか、楽しみながら感じてもらおうのだ。望めば最後の時間帯に行う、スパタイGP（スーパータイムアタックグランプリ）なるタイムアタック競技に参加できる。「安全、安全っていつても、退屈なイベントになるのは嫌だった。マネーさえ確立できれば、あとは抜きつ抜かれつのレースの醍醐味と雰囲気を楽しんでもいい。スパタイGPはクルマへの負担を考えてレースではなくタイムアタック形式だから、昔のQFアタックみたいなドキドキ感も味わえると思うよ」

3年目を迎えたこうした活動は、少しずつ共感を生んでいく。去る4月23日（日）に袖ヶ浦フォレストレースウェイで開催されたレッスンには約50台もの参加者が見られ、イベント発足当時からタグを組む出光興産によるサポート、さらに今回はルノー・ジャポンが協賛して多くの教習車や試乗車、展示車を用意した。今回はVWが協力し、今回はスパバルが新型モデル、BRZを持ち込む予定で、今では自動車メーカー、インポーターもこの活動に一目置いていようだ。それは、優れた高性能車をリリースする反面、それを意気揚々と走らせる場所がないとメーカーも感じていた証ではないだろうか。「ワインディングを攻める、なんてやめて欲しい。今やクルマとタイヤの性能が上がりすぎて限界が分かりにくくなり、かえって危険性が高いと感じる。増して峠道で運転の練習をするなんてとんでもない。先に触れた事故のような、他者を巻き込むことになりかねないし、社会問題に発展しかねずクルマ愛好者の首を絞めてしまう。そして自動車メーカーが走り傾倒したスポーツモデルを出すのなら、それを楽しめるフィールドを提供する責任があると思う」



そしてこの活動は、安全を主題に置きつつも裏には太田が望む「参加型モータースポーツの普及」が潜んでいる。先に触れたスパタイGPを「いずれアマチュア最高峰のイベントにしたい」と語る。もとは40代以上のアマチュアドライバーにモータースポーツを体感してもらおう。太田哲也とオヤジレサーズ」の展開から始まった活動だ。こうした取り組みに可能性を感じずにはいられない。「モータースポーツを趣味とするのは大変なことなんだって、オヤジレサーズ」の活動を通して再確認したんだ。時間やお金はもちろんのこと、精神的なハードルがとて高い。オヤジレサーズ」の活動にしてもまだまだ敷居の高さを感じる人がいる。だからもっと入りやすい場を提供しようと思った。安全運転を学べる場を前提に、ここがアマチュアモータースポーツの入り口になればいいな、という願いを込めて」

安全運転を適正に学ぶ場所であると同時に、アマチュアモータースポーツを普及させる場だと考えているのである。また一度でも参加した人は、以後は自身が伝道師となって、安全運転と、そしてクルマの魅力を世の中に伝えて欲しいと願っている。世の中には悲惨な交通事故が頻発している。ニュースを聞くと、実践的な安全運転の重要性を伝える太田の「学校」に期待が高まる。また、いまだにアマチュアモータースポーツと改造車の暴走行為を混同する向きもあるが、成熟した自動車文化を持つヨーロッパのように日本が成長するには、高性能車よりもこうしたソフト面の活動が必要ではないか。来る6月23日（土）



Tetsuya Ota ENJOY & SAFETY DRIVING LESSON supported by 出光

合い言葉は「クルマが日本を元気にする！」。太田哲也氏校長先生を務める「クルマの挙動」「ベストラインの走り方」といった座学に加え、特別講師の中谷明彦選手の講義も行われる。ドライビングをクルマの理論から学べ、女性を含め初めての方も無理なく参加できるプログラム。スパバルBRZを用いた体験試乗やゲストによるトークショーも実施する。スパタイGP同時開催（参加費は別途5000円）。詳しくはwebを参照（<http://sportsdriving.jp/schedule/20120623.html>）

日時：6月23日（土） 8:00～17:00（走行は午後より）  
会場：筑波サーキットコース1000 参加費：2万500円（保険、ランチ付き）  
問い合わせ：太田哲也スポーツドライビングスクール事務局  
☎045-948-5540 <http://www.sportsdriving.jp>



講師として参加した青木拓磨選手と太田哲也校長。同乗走行ではそれぞれステアリングを握ったが、その強烈な走りと同乗して直に体験した参加者は驚きの色を隠せなかった。

に筑波サーキットで開催予定の次回レッスンを始め、今後も趣向を凝らしたイベントが、太田の頭の中には芽生えている。普通では習得できない真の安全運転を学びたい、あるいは愛車の性能を知りたい、あるいはモータースポーツにチャレンジしたいなど、動機はなんでも良いと思う。そうした欲求を満足させる全てがここに揃っている。太田哲也が校長先生となって「モータースポーツの世界にようこそ」と掲げて始まるこのレッスンには、世に、チャレンジの魅力、を訴えるエネルギーがみな太田の活動が凝縮されるように感じた。